

目からウロコ！ 外国人診療にきっと役立つ 雑学集

小林米幸 著 医療法人社団小林国際クリニック理事長・院長，

特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター理事長



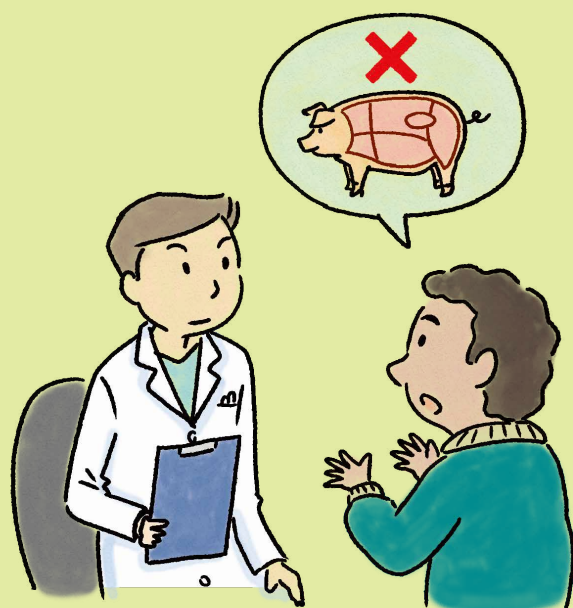
本コンテンツはハイブリッド版です。PDF だけでなくスマホ等でも読みやすい HTML 版も併せてご利用いただけます。

▶HTML 版のご利用に当たっては、PDF データダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶シリアルナンバー付きのメールはご購入から 3 営業日以内にお送り致します。

▶弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することで HTML 版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶登録手続



▶HTML 版を読む

日本医事新報社では、Web オリジナルコンテンツ
を制作・販売しています。

▶Webコンテンツ一覧

目次

はじめに	p3	15. 怪しい「そうそう」	p21
1. 採血をするときに針を刺した瞬間、針から腕を引き抜こうとする	p3	16. 入れ歯の話	p22
2. 待合室の子どもたちがうるさい	p4	17. 点滴してほしいという要求	p23
3. 「熱い」という訴え	p5	18. 刺青の意味	p24
4. 「無料」で診てくれるところはないかという質問	p6	19. 「私の血液型は？」	p25
5. 皮下埋め込み型避妊用インプラントの抜去依頼	p8	20. 言葉の意味は正確に	p26
6. コインで皮膚を擦るカンボジアの習慣	p10	21. イスラム教の祈りの部屋	p27
7. 割礼を頼まれたら	p13	22. 出身国の薬の使用	p28
8. 上座部仏教徒の頭を撫でてはいけない	p14	23. イスラム教では火葬はご法度	p29
9. 食事に関する宗教上のタブー	p14	24. 亡くなった途端、故人の口の中にコインを投げ込む	p30
10. 中国系の人は「冷たい食事は妊婦や胎児の健康に悪い」と考えて食べないの で注意	p16	25. 携帯電話の番号は毎月はじめの受診時に 聞いて記録しておくべき	p30
11. 上座部仏教の僧侶に女性が触れるのは タブー	p17	26. 出産間近まで受診しない	p31
12. 男性医師によるイスラム教徒の女性の 診察	p18	27. 「サロンパス」と「味の素」	p33
13. 予約の時間に遅れたり、連絡なく来な かったり……	p19	28. ほんの少しのS-GPTの上昇	p33
14. 友人と「誘い合わせ」の上、やってくる	p20	29. 食事指導の落とし穴	p34
		30. 「ついでに聞きたい」が多い	p35
		31. 国籍を尋ねることもトラブルになりかね ないことに注意	p36
		32. 付き添いの「兄」「姉」「弟」「妹」は本 当の家族か	p37

はじめに

筆者が外国人医療に取り組むきっかけとなったのは大和市立病院外科に勤務していた1987年、公益財団法人アジア福祉教育財団難民事業本部の定住促進事業で開設した、インドシナ難民大和定住促進センターの嘱託医となったことであった。母国の政変の混乱から逃れてタイ国をはじめとする難民キャンプに收容され、日本定住の意志を持って日本政府に受け入れられたカンボジア難民やラオス難民の診療にあたった。日本語を理解できない人々が適切な医療を受けることの難しさを痛感し、1990年に大和市内に日本人も外国人も同じ地域住民として診療する、医療通訳者を配置した小林国際クリニックを開設。さらに翌91年、外国人の医療・医事電話相談を無料で、5カ国語で受け付けるNPO法人AMDA国際医療情報センターを設立した。本書の内容はこれらの活動の中で経験した雑学のまとめである。

より実践的となるよう、あえて国名、民族名や宗教名を挙げて書いた。しかしながら、日本人にもいろいろな考えの人がいるように、同じ国、同じ民族でもさまざまな考えの人がいて、すべての人に当てはまるわけではないことを承知していただきたい。それでもあえて国名、民族名、宗教名を書いたのは、具体的に書かないと現場で役立たないと思ったからである。

決して特定の国、特定の民族、特定の宗教に関して偏見を持っているわけでもなく、差別を助長しようという考えもないことをぜひ理解したうえで読みいただきたい。

1. 採血をするときに針を刺した瞬間、 針から腕を引き抜こうとする

ポイント

▶腕を引き抜かれないよう、予防的にスタッフに協力してもらう

採血のために針を刺されることは誰でも好きなことではないが、それでも我慢する。ところが、大人になっても針を刺されることに極端に恐怖を覚え、足をばたつかせたり、涙ぐんだり、針を刺した瞬間、脈血帯で腕を圧迫したまま、腕を引き抜こうとする人が特にフィリピン人では珍しくない。引き抜かれると周囲に血液が飛び散ることになるので注意が必要だ。

対処法

スタッフが後ろから優しく肩を抱いてあげたり、励ましながら、このような行動が起きないように「予防措置」することであろう。

2. 待合室の子どもたちがうるさい

ポイント

▶「体調の悪い人もいる」と具体的な理由を添えて、静かにするよう注意するべし

アジア、南米の子どもたちをみていると待合室で大きな声で話し、動き回っていることがよくある。日本人の中にもそういう子どもたちがいないわけではないが、非常に目立つ。付き添いの保護者を見ていると、注意をするわけでもなく、ほとんどが子どもの好きにさせているようにみえる。

このような行為を放置しておく、日本人患者の中には待合室の騒がしさに嫌気がさしたのか、不満顔の人たちもみかけるようになる。さらに放置すると患者の減少につながりかねない。



対処法

スタッフが直接、静かにするよう、保護者や対象者に説明するしかないと思われる。ただし、「注意」をする際には「静かにしてほしい」と言うのでは不十分である。外国人だから注意されたと誤解されかねない。体調の悪い人もいるので、医療機関の待合室では静かにして待っていてほしいと具体的に理由を説明すべきである。

3. 「熱い」という訴え

ポイント

- ▶ 痛いわけではないようだが、どのように理解してよいのか悩む
- ▶ 訴えをよく聞いてみるしかない

外国人を診察していると、中国人、東南アジアの人、南米の人など広範囲の人々から「胃が熱い(hot)」「おなかが熱い(hot)」などの訴えをよく聞

く。痛いのか尋ねると、「痛いのではない、熱いのだ」と言われる。逆流性食道炎を疑って、内視鏡検査を行ってみてもとくに異常がないので器質的疾患ではなく、機能的疾患なのだろうと想像する。よほど特殊な疾患でない限り、日本人でも同じような疾患に罹患する人がいるはず、ということは同じような訴えがあるはずなので、よくよく考えてみるのだが、思い当たる症状、疾患があまりない。

対処法

対処法らしい対処法はない。訴えをよく聞いてみる、胃に関しては内視鏡など検査を行うしか方法はないだろう。

4. 「無料」で診てくれるところはないか という質問

ポイント

▶外国人への生活保護の準用は、永住、定住等の在留資格を持つ人に限られる

初めてこのような質問を受けた時には、随分、図々しい質問だなと思い、質問した患者に対してあまりいい印象は持たなかった。

台風オンドイ（2009年）による被災者の支援のためにマニラに行ったとき、フィリピンジェネラルホスピタルに寄った。そこで、ある部署の前に患者の長蛇の列ができているのを目にした。フィリピン人の友人に尋ねたところ、医療費が支払えない収入であることの証明を求めて並んでいるとのことであった。それが認められると医療費は無料となるシステムなのだそう。

イスラム教を国教とする国で、貧しい人々に対して無料診療を行う医療